



安福

晴明物部

目取巻秘傳

五

八

へ遠13
2506
7-5



門へ還13特
2506
7-5

安倍晴明日取之巻序

其のうと天よりしてハ徳星乃探星天并星とて
り人召小あまらさつして天らくしてハ高き大皇
と名づけ老唐とてハ長塔天神日本よりしてハ素
尊高きと名づくそ乃夏作の時素の名を牛乳
天皇と申すと南阿婆羅王乃弟三のむじあ
願利采女と妻とす。福懸廻懸の司として飛の
り城と名づく一巨息とてハ不悪懸と名づくを懸
也采和と名づくてめぐるを懸とす。福民将采和
貴し。其の天下とてハ先てハ将神とてハなまふ
り人召采女と嫁とす。まひしてハ帝孫王と生

そまふ。十千十二文十二家九番四十八神のみか
その下。いり。生をとり。これす。かりら。年。中。乃。者
画。と。わ。り。り。治。ふ。と。こ。海。その。あ。ま。た。あ。ど。う。ん

- 才一 天乃神
- 才二 歳徳神
- 才三 八将神
- 才四 天徳神の旁
- 才五 金神七穀の旁
- 才六 金神七穀豊稔
- 才七 月の塞
- 才八 日の塞
- 才九 大將軍在行之旁
- 才十 九圍之の象 付 四季之画日
- 才十一 四季去用よ入日

才十二 社日

才十三 復日堂日

才十四 魚忌の日

才十五 交死之日

才十六 天一神

才十七 方伯神之處

才十八 阿津智神之處

才十九 天衣神之處

才二十 八咫神之處

才廿一 破軍神之處

才廿二 方角之圖

才廿三 小室七ノ時

才廿四 十子之古画

才廿五 十二支

才廿六 十二客

才廿七 半夏生日

才廿八 三伏之日

才廿九 不成禊日

才三十 減日及日

才卅一 烟七注之日

才卅二 十死一生日

才卅三 回神お祭之地形

才元四 桓豆之吉日

才元三 棟上吉日

才元六 各と裁吉日

才元七 報應日

安倍晴明紀目取之卷八

一 天道神

凡此天皇乃靈化身は神遊約の方まら

り用之大吉也 禰言神の方 袍衣と裁と その

外西院成禰乃方也 正月は南二月は北

四月は西五月は南六月は東七月は北八月は東九月

は南十月は東十一月は南十二月は北 正月は北

二 歳德神

此是年乾天玉乃后 願利糸女八御神の母あり 瑞

正氣 瑞正 出柔和の祓るれ 瑞正 小用て大吉也

甲己の年 八里 此方より 宣卯の方とす 乃



おふねんしつしつ酉辛の年ハ酉乃をりあり是
己午乃ら也戊癸乃年ハ戌の方よりあり。世未辰成
乃あひびごありあり。統よは己午乃ら也といふ。庚乙未
年ハ庚乃らよあり申酉の年也。壬丁の年ハ壬
の方よりあり。亥子乃らあり。世よは戌の方とええと
つ又癸の方と名づつ。口おまにむよと方也

三八将神

これ半辰天皇八人の皇子よりして皇孫皇孫用乃行
夜神あり。その司あり。若返あり
古歳神ハ古歳神也。は方よむらしての故とつ
おまにむよと方也。生まるところに

大御神ハ地神也。天皇也。は方ハ方也。小御神ハ
年とさごりといふ。一方よと年つあり

大張神ハ地生親也。は方ハ方也。母忌ハ一母也
婦孫聘乃契物成就也

歳刑神ハ地生親也。は方ハ方也。むらして去
あり。うごうは事といひ。若返とつ。つ。武彦と

歳破神ハ地神也。ハ方ハ方也。むらして去
川と後ら。は。みよのうごう。は。おまにむよと

歳殺神ハ地神也。ハ方ハ方也。むらして去
あり。うごうは事といひ。若返とつ。つ。武彦と

歳殺神ハ地神也。ハ方ハ方也。むらして去
あり。うごうは事といひ。若返とつ。つ。武彦と

少はよりしち矢より、主婦の物未だよつびぐ
 英幡神ことうたけが地蔵利まりり天あり、軍陣の旗幕ふとの
 神かみとあり、たいやう杖とては方よりある、こころまよふ
 豹尾神ひょうびを枕まくらとて英幡神あり、は方よむ、のく未だ
 といふ事、お候といひ、牛もふより、のり生熟と
 といふ事、は。豹尾神、いひて入、あまるといひ
 天文神の物、はつこと、事といひ、玉文神を
 豹尾神、いひつ、まらと、夢りす、ふゆ、
 出入ともいひ、へ、まると、を豹尾申ひょうびの
 り、わき、は、と、英神を、西にしより、わり、候、これ、な
 非ひと、い、

四天徳神の方

け方、八門の、お、ま、り、成、と、と、そ、あ、つ、い、つ、と、病、人、を、
 ふ、と、と、て、万、事、小、大、吉、句、り、た、く、様、と、
 正月しげつ 午未うみの 二月 未申みま 三月 壬子にんしの
 四月 辰戌たけの 五月 戌亥しげ 六月 寅卯ひなの
 七月 子せこの 八月 丑寅うひ 九月 己午こひの
 十月 卯辰うひの 十一月 辰巳たけ 十二月 申酉まひの
 又、金神七殺の方、并、日、名、
 は、方、は、と、れ、忍、忍、七、魂、乃、誓、り、ま、は、と、こ、ろ、八、門、お、高、貴、
 萬、事、申、よ、つ、び、と、と、る、大、吉、候、り、お、大、よ、あ、る、と、

○甲巳歳 午未申うみ 酉の方
 ○丙辛歳 子世寅こひ 卯の方
 ○戊癸歳 子世申こひ 酉の方

○丁丑歲 寅卯 ○戊寅歲 申酉
月之塞

西八十九の少あり二六十八の東ありと七十一の南あり
四八十二の西あり

日之塞

一東二巽と南四坤と西六乾七北八艮九天十地

一日より又東よ初よりと地よ北よりと知す

六 大將軍遊む之方

春ハ甲子日より東よわをふ事六日あり巳己日ハ
西よわをふ事六日あり南よわをふ事六日あり

こまに字をまに御るを申す六戊子日より中央よわをふ
も六日ありて癸己日申すも御る枯ハ庚子日より西
よわをふ事六日あり己日申すも御る六壬子
日よりわをわをふ事六日ありて丁己日申すも御る
右に方とありて六日ありて大將軍ハ一ありて御る
北に申すも六日ありて甲子の日より六日ありて申すも六日あり
そびゆくは六日の間ハ東よわをふ事六日ありて御る
申すも六日ありて六日ありて申すも六日ありて御る
るり方ハ六日ありて六日ありて御る

七 九圖

一徳六容之水 壬子 夏 二養七陽之火 丁亥 三生八雜之本 甲子

秋 四穀九厄之令 庚子 土角 又鬼之令 戊子

八 四季去用又八日

右四季の節ありて十二日めふ入て十八日めふてはる
去用のあひだに没日のまは十九日ありて終る也
ち用めは生作その外可事うつけとむとをり
と事と画也がじし 呂日めはらううら

善ハ己年酉亥ハ卯辰申 秋ハ未酉亥冬ハ寅卯
己乃日ハ四季去用此日也

九 社日

己日ハ田男神ちんがんつらりとたうして。書神ウケミとあり日あり。
社事ちのまの無むを介あ支し婦ふ孫そん聘へい納な乃のつひ合あを和わ合あ一

味の事小画へ。二八月の中とつふおぼはらうう
戌乃是燕つがハ社日小巢とと離なきて馬う夜い園えん也

十 暖日重日

己ニケ乃日ハ師し逝しとり新婦よめがり社まて納な乃の事こと初はつめ
と画へ。己日成神なり事こと大おほく破やぶきてハ又また佐たす也なり
と事也書とりしじらと又また喚こゑ也なりと事ハ大おほく

十一 血忌日

己日人を馬うまと血ちと出でと事とつひ針灸はりしうと事
すべくと。十二月乃中つきのなかつよ十三支しひとつづ二月よ
つと十二月ふたつきすそめめ也なりと事

母未寅申卯酉辰ははみえんしんまうしんや戌い己亥つひま子こ午ひまハ血ち忌い也なり

十二 亥死之日

け日病^{ぢつひ}とうくらふものうからん死^しとうくらひてあむ^{あむ}也
 也^あとて万事^{ばんじ}ふ者^{もの}の目也^めなりよ^{よし}

戌^{うし}や辰^{ちん}をこ^こに午^ごに世^よ來^き寅^{いん}申^{しん}卯^み酉^う交^ま死^しの日^ひを
 在^ある月^{つき}の十二^{じふにし}月^{つき}まで月^{つき}ごと^{ごと}にその日^ひといひて

十三 天一神

天一^{てんいつ}神^{かみ}の帝^{みかど}杖^{たいしやく}の在^ありて^て之^{これ}象^{しやう}と見^みらる^る天^{てん}
^{てん}と萬^{ばん}國^{こく}とあ^ありて帝^{みかど}様^{やう}ふ^ふと天一^{てんいつ}神^{かみ}の在^あ
 下^{した}ふ日^ひ遊^{あそ}ば神^{かみ}としてこまわ^{まわ}り天一^{てんいつ}神^{かみ}天^{てん}とあ
 河^か日^ひ遊^{あそ}ば下^{した}界^{かい}よりこま^まり人^{ひと}の敵^{たいて}とい^いてわ^わ
 とす神^{かみ}といふ神^{かみ}と燭^{しやく}ふ^ふ天^{てん}と天一^{てんいつ}神^{かみ}と十六^{じふ}日^{じつ}を

うら万事^{ばんじ}清^{きよ}浄^{じやう}する^す天^{てん}と十六^{じふ}日^{じつ}と遊^{あそ}ば日^ひ遊^{あそ}ば
 とか^かの世^よとあ^ありて^て造^{つく}らる^る天一^{てんいつ}神^{かみ}と天^{てん}
 日^ひ天一^{てんいつ}神^{かみ}と十六^{じふ}日^{じつ}と遊^{あそ}ば下^{した}界^{かい}よりこま
 ま^まり日^ひ遊^{あそ}ば天^{てん}とあ^ありて十六^{じふ}日^{じつ}のう^うら軍^{いくさ}を
 鷹^{たか}の川^{がは}をいひ

十四 音伯神

美^み加^か來^き申^{しん}子^こ夜^や當^あ己^こ酉^う也^{なり}酉^う方^{かた}寅^{いん}年^{ねん}戌^{うし} 寅^{いん}方^{かた}
 右^{みぎ}け日^ひ遊^{あそ}ば向^{むか}ふて^てあ^ありて^て戦^{いくさ}能^よぢ^ぢん
 支^し阿^あ律^{りつ}智^ち神^{かみ}之^の方^{かた}
 世^よ小^こ指^{さし}神^{かみ}の方^{かた}と^と右^{みぎ}け方^{かた}よ^よび^びて^てあ^ありて^てあ^ありて^てあ^ありて^てあ^ありて^て

から負とよる也軍我騎務負と事口論い日は方
よ向ふものうめど負と

子の日ハ心よりかぞく叫んでありめ辰乃方也世の日
ハ世乃方よりうぞく叫んでありめ酉此方也寅の日
ハ寅の方よりわがぞく叫んですめよわこふ亥れめ
也卯乃日ハ卯乃め未の方辰れ日ハ申乃方也日ハ未
ハ卯戌此方午日ハ卯乃世方未日ハ卯乃め子乃申
の日ハ卯乃目卯乃酉日十目午方戌日卯乃め寅乃亥
の日ハ卯乃めこの方ありなり

子ハスツ世ハ九ツ寅ハ十卯辰ヤ戌ハまこあり也
こ未ハ六ツとありと亥ハ七ツ酉十有六午申ハ八ツ

其 天支神の方

は神ハ女神あり也鶴尾神ハまきそめらふ也鶴
尾ハ尾よりうぞくありこひ天支神ハ後よりうぞく
はくこゆふいありこるる神乃方よりありまのんを
申もも大鶴尾もまても死とふ也

申子辰之歳ハ亥の方言卯未乃方ハ寅乃
方寅午戌乃方ハこの方己酉世此年ハ申
乃方よりありとある也

其 八思神の方

世ハ友乃方と名づくは方ハ敵乃方と名づくは
とむとめとよりハ味方乃方負人病人をとむは方

一初 孝事大よむびぐ一友 ひとり方なる也 居ら
つと梅後よぶく画也

子乃日ハ子の方、いりかゝて甲のめ年、乃方也 せ
の目もせれ方、あまうぞんて甲の腹乃方あり

寅ハあつめ知とあつめ居ハハつめこもハつめ年ハ
甲のめ来とも甲のめ申ハあつめ酉もあつめ戌ハハ

めまよハハつめとあつめ

十八 破軍之方

正 二 六 三 七 四 八 五 九 六 十 七 十一 八 十二 九 一 十 二
十一 三 十二 四

右正月とハ正月の子れ時あり、正の子ら子ら也

そんてあつめ居乃方あり、こまにひりあるうも

九月一とは九月のうら子の時あり、すまうら子

乃方あまひりあるうら軍陣とくひひけり、乃物

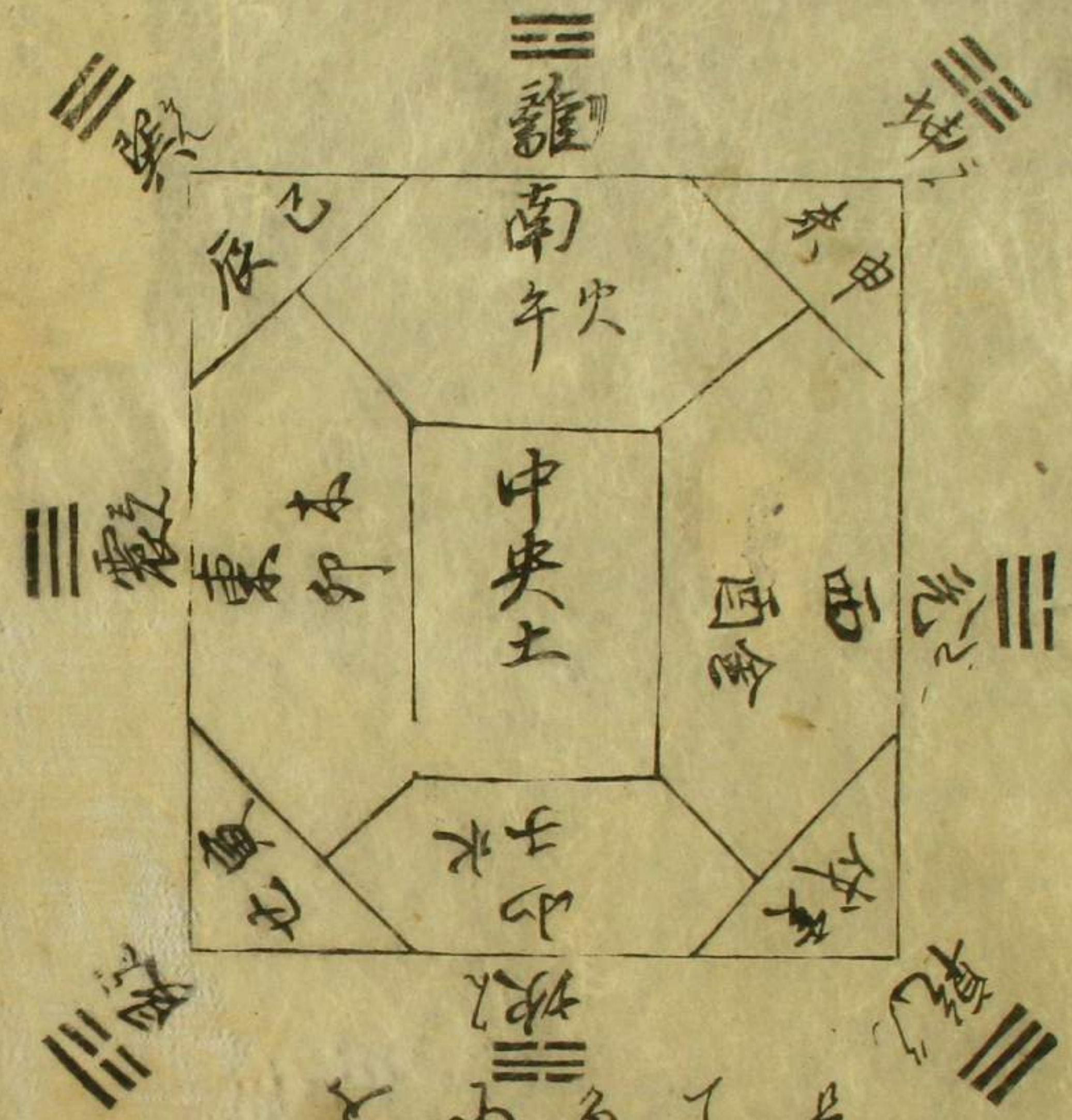
負ら半ハ輪とれは方うらひりあるう

あつて正月とあり、正月まで、その日の時とそ乃

あつてあつて、あつてあつて、あつてあつて、あつてあつて

あつてあつて、あつてあつて、あつてあつて、あつてあつて

十九 方角之圖



是八方中央ありて
て又外十二支あり
角と志ありて是
小ありて日取あり
とありてふあり

二十 小室元の時

二世世よふ族能日とくあつて万事成りしむ
とん大よつて軍我城はくり家業能とててあり
うつて

朔八十五九二九九日 皇印時あり午刻あり

四十一十八廿五日 東面あり子刻あり

元一十平之者画

○甲しハ本姓ありけ日ハ生来とてさくはち力刃成
はくつと生類とてころとすを画半より計資
とてつと軍を立と画家他門出城とて立り者
○角丁ハ大姓也け日ハ家修滅立と真と作り葬祀

海河と海の牛馬とりと先升灸と画一門書
戦利より武勇の事小用てよう

○戊己の土姓也日ハ母也とりとめ病人と死人
あふらひも具とつくと夜とたらま他とを和事
と画海聘の事灸とたこひらあう

○慶幸ハ金姓也日ハ家也り城を築とたら出陣
灸と画特漁飯とあうあう

○壬寅ハ有姓也日ハ公也とうごう井堀と他り梅
あふらとけり具是末と他り画門出家他城と
ア立ふあう

正二十二支

○子の龍也日ハ水也元胎具是務の事初初
り入るひあんとり先牛もとりとひらあま
ひまう吉あつらり城を築とつと灸とたこめ
聘ハ事小画

○世ハ牛也日ハ車也のり物と他り念初務事
とひ武勇海聘もは用ゆあう

○寅ハ虎也出陣門ハ車也とりと先去具と他
あふら漢特海聘衣裁年礼も画

○卯ハ兔也日ハ元胎務事也金門ハ入部
海聘と画

○辰ハ龍也日ハ神也とらり灸とたこめ
田種

まらさるをとけくふよ者。舟乗く先家修り程
立病人と云ん死人と云うてぬりし心

○己ハ地あり。げ日ハ空冥神とまつりら始め小者門
出あつて入部し心

○年ハちも是け日ハ出伊は空の故とれさ先序立
物よ者入部食初し心

○未ハ羊也。げ日ハ武勇と信武具と修りふ者そ介々
万事小画

○申ハ猪也。げ日ハ神事。既修り牛も高買よ者
二亥乃る夕なりし心小画

○酉ハ雞也。げ日ハ皮位授給。修り小画
修聘し心

○戌ハ犬也。げ日ハ出は第面修聘乃る先きり人の初め
公事小画

○亥ハ猪也。げ日ハ城攻合戦。修り小画
て万事小画

廿三十二名
○建とい本世世界のら先也。げ夜よ美あ物とせらる
一切おひさみりそ乃外小画

○降といにの。本世一切の悪業をぬて除らる日
也。げ夜よ病と瘡。修り小画

○申小用のそ介小画

○満ちたるは一切先備乃日也。又教と納め成
實と有りて先備と立万後成統乃日也

○平一とハ大性一切平安乃日也。是乃方事のあり
い所成望の家也。極之と云々。方事よ大

者也
○定とハ其の一切儀定乃日也。このあり
軍律定と云々。法合入部。法法成統乃日也。此

を心ふる者
○執とハ一切と持日也。是乃方事のあり。入部
城也。乃方事と云々。心ふる者

○破とハ今世一切破是極なる日也。家也。乃城立

は後物乃云々。先よ画也。と云々。城攻山あり。特種
うらあよ大者也

○考とハ其の一切あり。一切あり。と云々。日也。是乃方事
出陣乃律定乃方事。小画あり

○成とハ其の成也。乃日也。是乃方事のあり。教乃日也

○納とハ其の納也。乃日也。是乃方事のあり。教乃日也

○用とハ其の用也。乃日也。是乃方事のあり。教乃日也

○事加統と云々。乃日也。是乃方事のあり。教乃日也

○神乃日也。是乃方事のあり。教乃日也

あつちとるん時はあよま
開とはちほ也一切の成統日は但物とらら封
温とあはうし

五 半夏生日

六月の中より十一日目ありげ日半夏といふ
茶生びこり日ありくろまき色肉の事とい
ひぐく大細脚の幼米とをさぐりた

五 三伏之日

六月の節よ今初乃度と初伏とらふ次乃度と中伏
といふ後乃度と末伏といふづい三伏乃日の事他り
持前と初めく可なりあへ

六 成統日

正七月ハ 三十一 十九 廿七日

二八月ハ 二十八 廿日 三九月ハ 一九 廿 廿六日

四十月ハ 四十二 廿八日 又十一月ハ 又 十三 廿一 廿九日

六十二月ハ 六十四 廿二晦日

右の日事成統日をあき弁てあひさの事
難その為よ来り也

五七 減日後日

減日六十三日六十四日ふりくあは日七十日七十一日にめ
くりゆは五日八日七とあさかりは月あもをむきそてあゆ
小の日はこれよりていふ事よ二度の個とたなり也

去疾の地とらづ。也方甲寅の年おはる。是より
てよ首とらひ。さるるさあは槐乃木とらふ。一
られと甲申おむの地とらふ。くさその中央よ
右位と裸其の中ふくと首とらひ。人その西面と
くさる。その申ふ位と西面をさりてふ。一ては
さうんがらぐ。

一 桓立之吉日

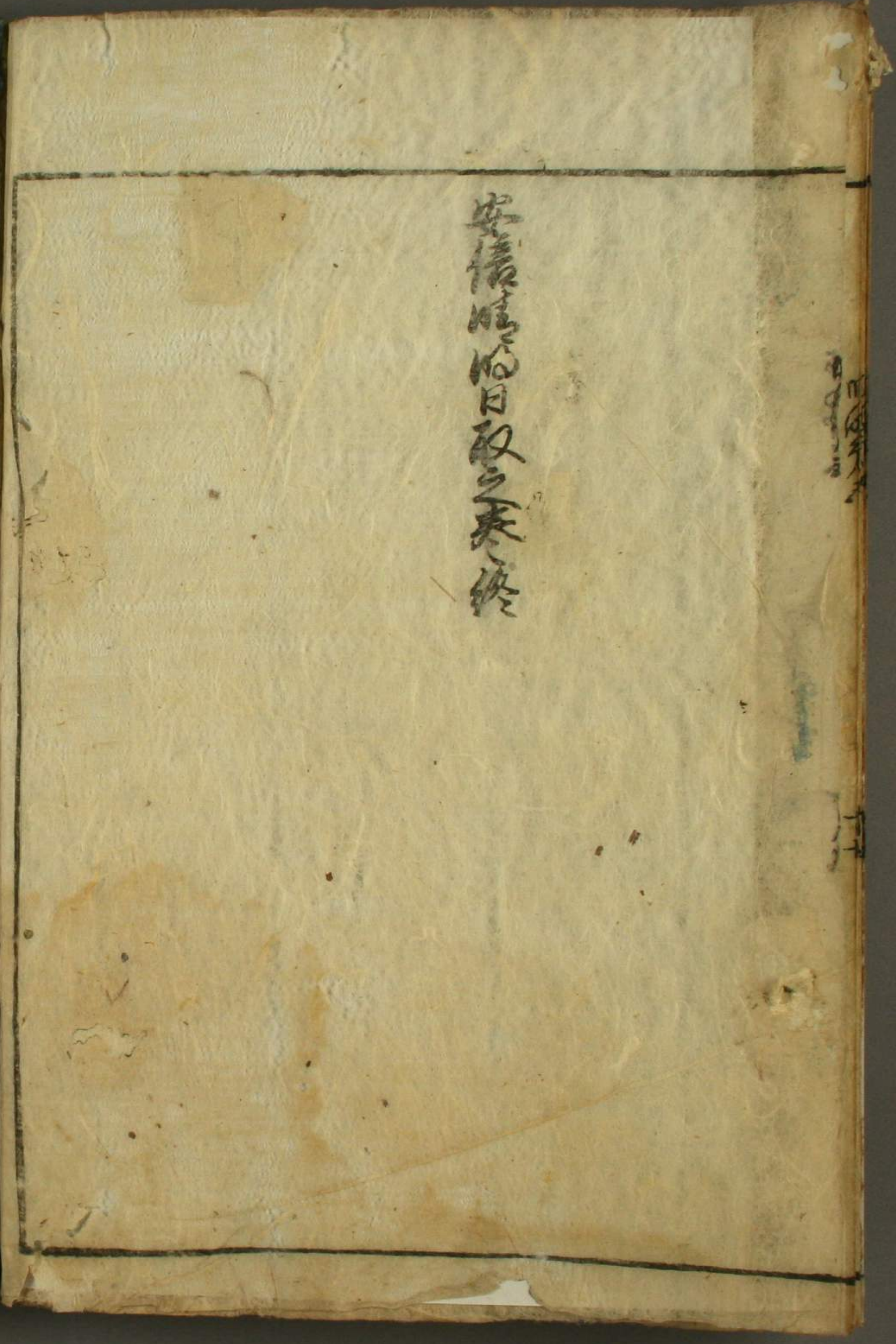
甲寅 乙卯 丙子 庚申 午戌 辛酉 壬子 寅午
卯酉 右位日とらひて 礎桓立とら
甲子辰 乙卯酉 申辰子 辛酉 酉戌 壬申 申酉 癸酉 酉戌

三 裁之吉日

甲子戌 乙丑亥 丙寅 丁卯 巳巳卯 庚酉 庚
子戌 乙未卯 寅辰 丁卯 巳巳卯 巳卯 庚酉 辰子 辛酉 酉戌
右申乃日。裁とらひ。是より傷とらふ。
おまらうとらひ。うとらふ。と焼こつては。癸乃日。夜成
はる。

四 報應日

一 寅の月 二 卯の月 三 辰の月 四 巳の月 五 午の月 六 未の月 七 申の月 八 酉の月 九 戌の月 十 亥の月 十一 子の月 十二 丑の月
又十四日 又十五日 又十六日 又十七日 又十八日 又十九日 又二十日 又二十一日 又二十二日 又二十三日 又二十四日 又二十五日 又二十六日 又二十七日 又二十八日 又二十九日 又三十日



安清館日記之卷終

四
月
八
日

丁
未

